

2014年9月5日

**電通は東北ロクプロジェクトと協働で「未来創造プロジェクト」を発足
－6次産業モデルの価値創出に取り組み、東北復興と日本の未来に貢献する－**

株式会社電通（本社：東京都港区、社長：石井 直、以下「電通」）は、一般社団法人東北復興プロジェクト（代表理事：渡部 哲也、所在地：宮城県仙台市）と株式会社東北6次産業創出支援センター（代表取締役：大江 文彦、本社：宮城県名取市）からなる「東北ロクプロジェクト」と協働で、「未来創造プロジェクト」を始動します。東北復興に向け、農・漁業生産から製品化、販売サービスまでを融合する「6次産業モデル」^{※1}の確立を目指し、さらには日本のあるべき未来社会の姿を探るべく活動してまいります。

東日本大震災以降、自然と共生する本当の豊かさ、次世代に伝えていくべきものについて、多くの方が自らに問い直しました。今、東北で求められている第1次産業の再定義、障がい者や高齢者とも共存し次の災害に対応できる地域コミュニティの在り方などの多くの社会課題は、被災地の復興だけでなく、日本全体の未来のモデルへの鍵ともなり得ます。

東北ロクプロジェクトは、震災後、東北で活躍する6人の経営者が志を持って集結し、農・漁業の6次産業化などによる社会課題解決を実現する場として、2013年9月29日に宮城県名取市に複合商業施設「ロク ファーム アタラタ」www.atalata.com をオープンしました^{※2}。

現在、産業モデルとしての確立を図るべく、訪れた生活者に対して6次産業の価値を可視化することが差し迫った課題となっています。

今回、電通と東北ロクプロジェクトは、電通の有するアイデアを生み出す力とコミュニケーションスキルを生かして、東北の復興という社会課題解決への寄与^{※3}と「6次産業モデル」の価値創出に取り組みます。その第1弾として、「ロク ファーム アタラタ」の6次産業モデル店舗化を推進し、電通が生活者視点で、理念や施設総体の仕組みをデザインすることで、生活者が6次産業の価値を体感できる場づくりを行います。

今後は、新商品・サービス開発、従業員施策など、6次産業モデルの価値を拡大する活動を行っていく予定です。

以上

